

かほく市図書館 友の会だより

発行日 2016年3月25日

発行者 かほく市図書館友の会

〒929-1173 かほく市遠塚口57-6 かほく市立中央図書館内

第12号



平成28年度も図書館友の会の会員に！ — 継続の手続きをお願いします —

平成27年度の会員は、121名でした。「かほく市立図書館」の応援団として、応援ボランティアや古本市、図書館見学会、友の会の集い、紙しばいの会例会等の活動を展開してきました。

これらの催しの運営や参加だけでなく、図書館へ足を運んでいただくことも会員の活動になります。

121名の方々、なにとぞ会員の継続手続きをお願いします。そして、友人知人をお誘いください。友の会5年目となる平成28年度、さらにこの会を発展させていきましょう！「かほく市立図書館」を応援していきましょう！

【申込方法】

- 受付開始日：3月25日（金）～
- 同封の用紙にご記入の上、会費を添えて図書館・図書室カウンターへ。中央・高松・宇ノ気いずれでも。
1口500円。2口以上大歓迎!!
- 友の会会員を通して申し込むこともできます。
- 友の会入会コーナーを、中央図書館に設けます。
4月3日（日） 10:00～15:00
4月10日（日） 10:00～15:00
4月24日（日） 10:00～15:00

第5回 かほく市図書館友の会総会 平成28年5月31日（日）13:30予定

継続入会された会員の方には、近くになりましたら、ご連絡いたします。ぜひご出席ください。

古本朝市に参加して

Y. H

2月21日（日）、「図書館友の会」主催で、古本朝市が開かれました。

図書館が新しくなって4年目。初年度から古本市を実施してきましたが、手前味噌ながら今回の古本朝市はうまく軌道に乗ったなあ…と、充実感いっぱいです。

まず、1時間前から準備をしたのですが、図書館の方も併せて17人と、これまでになくたくさんの会員が集まってくださいました。仕事もスムーズで、本の整理も十分にできました。

次に、ドアを開けた途端、ドッと多くの方が入ってきてくださって、途切れることなく2時間、たくさん買ってくださいました。売上金は、35,550円（過去2番目の多さ）。一部は会の運営費にいただいて、残りは義援金として寄付します。みなさんに、古本市が浸透してきたのだなあと感じました。

うれしい気持ちで何人かと食事をし、再度図書館に戻ると、なんと！50万人達成のくす玉が割れたところで

した。50万人の方が、横で取材を受けていらっしゃいました。「わあ！すごい！」思わず微笑みが漏れます。館長さんや職員の方から、「古本市にたくさん来てくれたから、今日、50万人を達成することができました。」と感謝の言葉もいただきました。

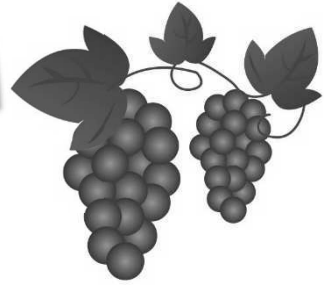
最後の充実感のモトは、図書館の応援団としての役割が、しっかりと実感できたこと。「図書館友の会」として、いろいろな行事を工夫することで、図書館へ足を向ける人を増やしていく一助になりたいです。

本を寄付してくださる市民の方々に、「ありがとう！」の言葉を贈ります。



大盛況の古本朝市！

第8回 友の会の集い



- ① 新聞紙でバッグを作ろう！
- ② ルビーロマンのおはなし

1月31日(日)第8回「友の会の集い」を開催しました。今回も前回と同じ2部構成でした。1部では「新聞紙でバッグを作ろう!」、2部では「ルビーロマンのおはなし」をルビーロマン研究会会長の大田昇さんからお話しいただきました。

1部では、友の会会員 青地さんの指導のもと、それぞれが新聞紙を使ってマイバッグを作成しました。各班6名ずつ5班に分かれ、マイバッグの表面に出す新聞面を相談しながら賑やかに折っていきます。最初は完成形がよくわからないまま折っていましたが、作っていくうちに完成形が分かるようになってうれしくて、おしゃべりも紙を折る手も弾みました。完成品は、まさに人それぞれ!個性溢れるバッグとなりました。



できました～!

2部では、ルビーロマンにまつわるお話を、大田さんからお聞きしました。高級ブドウの巨峰よりも一回り大きいブドウを開発するために、県が400粒の種を撒いたとのこと。大変な努力とご苦労を思うと感慨深く、また尊敬の念を覚えました。開発には15年かかったそうです。ルビーロマンの父は「ふじみのり」だけど、母は「わからない」など、普段あまり聞くことのできない品種改良の裏話なども聞くことができ、大変興味深かったです。

また、ルビーロマンは、県が種苗登録を持っていることで、誰でも作れるものではないそうです。偽物がたまに出るそうですが、本物は細かい規格の通りに出荷されているし、商標がなかったらルビーロマンではない、ということをお話しいただきました。

私たちのかほく市で生まれ育ったルビーロマンを、もっと応援していこうと思いました。ルビーロマンという名前は知っていても、どのように育ったのかを知らなかったのが、大変有意義なお話を聞くことができました。



ルビーロマン研究会会長 大田昇氏

参加者の声

第8回友の会の集いに参加して

越野 正勝(木津)

今回の集いは、「新聞紙を使ったマイバッグ作り」と、講演「ルビーロマンのおはなし」の2つがメインであった。バッグ作りは新聞紙面の気に入った写真などを表面に利用した。30分ほどで出来上がり、完成品を見せ合った。みなさん、お気に入りのバッグに仕上がり大満足の様子であった。

「ルビーロマンのおはなし」は、ニツ屋地区でルビーロマンのブドウ園を営み、生産者のまとめ役として奮闘されている大田昇さんに講演をしていただいた。昨年は「初競り1房100万円」「首相に届ける」など、マスコミにしばしば登場した。ルビーロマン誕生から現在に至るまでの苦心(1粒直径31ミリ、20グラム以上、糖度18度以上等、厳しい品質管理や販路の拡大など)を分かりやすく語られた。かほく市特産のルビーロマンを、身近なものとして知ることができて大変良かった。

ルビーロマン

ブドウ大好き

新聞2枚でのバッグ作り、ワイワイガヤガヤと楽しい時間。新聞の強さ、手軽さ、使い方、工夫次第で何通りにもなる。私にとっての新発見でした。

私には、マーケットに並ぶルビーロマンは高嶺の花。あこがれと羨望でながめていました。いつ、誰が誕生させたのか?知らないことばかり。今回のお話で、2006年かほく市内日角で産声を上げ、現在は石川県115か所で作られ、皮は薄く破れやすく、デリケートな果物とのこと。高くてもうなずける、石川県の逸品です。

古本朝市協力金から 東日本大震災義援金を寄付

3月4日(金)、皇名会長と会計の青地さんが、かほく市市役所 健康福祉課を訪れ、東日本大震災義援金として、6月と2月に開催した古本朝市の収益(協力金)から25,000円を寄付しました。

古本朝市にご来場いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。



古本市にいらっしゃった人30人に聞きました! ~Part2~

第11号に引き続き、図書館まつりで開催された、古本市の来場者に答えていただいたアンケート結果を発表します。今後の読書の参考にしてみてはいかがでしょうか?

1. どんな種類(ジャンル)の本が好きですか?

- ・ 物語・小説 18人
- ・ エッセイ 12人
- ・ 歴史書 6人
- ・ 実用書 15人
- ・ 芸術 3人
- ・ その他(理系・科学) 1人

2. その他、本、図書館、友の会、古本市について、ご意見があればお書きください。

- ・ もっとおもしろい本やマンガを増やしてほしい。
- ・ 大文字の本を求めます。
⇒大活字本の本棚にありますよ!(友の会より)
- ・ 活字がはっきりしたものを選ぶようになりました。60代後半です。
- ・ エッセイの本がもう少しほしいです。
- ・ プレジデントファミリーが読みたいです。
- ・ 中学生向きの本を増やしてほしいです。
- ・ 折り紙・つるし飾りの本がほしいです。

アンケートにご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

友の会 談話室

大人が子どもに読書をすすめる理由

かほく市立中央図書館 宮坂 奈央

昔から大人たちは、子どもたちに「若い時に本を読もう!」という言葉、くり返し言ってきたように思います。ですが実際は、その忠告を素直に受け止める子どもの数は、それほど多くないような気がします。あるいは、小学生のときに本を読んでいた子でも、中高生になると忙しくなってしまう、読書から遠ざかってしまう子が多いです。勉強や部活をはじめ、学校生活が大きな比重を占め、読書という行為の優先順位がどんどん下がってしまうというのが実情ではないでしょうか。

それでも大人たちが「本を読もう」と子どもたちに言い続けているのは、読書が人の助けになるからだ

と思います。娯楽のために読むのもよし、知らない世界に出会って知的好奇心を味わうのもよし。また、持て余していた感情に言葉の輪郭が与えられ、目の前の霧が晴れるような感覚も、読書を通じて得られるものです。

読書が続けていけば、自分の感情や価値観を大きく揺さぶるような本に出会える確率も高くなります。その出会いは、人生のパートナーを見つけるくらいに貴重なものだといっても過言ではないでしょう。私は旧七塚町の図書館を利用していたおかげで、そういう本に出会うことができました。

子どもたちには大人になるまでに、様々な経験を重ねてほしいです。けれど傍らに本があること、図書館があることを忘れないでほしいです。中には忙しいのに本なんか読めないと思って、ウンザリしている子もいるでしょう。けれど私は、先人たちが繰り返してきた「若い時に本を読もう」という言葉を、子どもたちに伝えていこうと思います。

ありがとう！ スプリングコンサート!!

3月3日(木)、西田幾多郎哲学館で開催されたアンサンブル金沢・弦楽四重奏によるスプリングコンサートのチケットが、生涯学習課のご厚意により会員全員にプレゼントされました。

少しずつ春の気配が近づく、ゆったりとしたひととき、素晴らしい演奏にうっとり酔いしました。



友の会活動予定

●リサイクル本収集

かほく市立中央図書館
階段下のリサイクル本入れで
常時受け付けています。

たくさんありがとうございます!!
今後ともご寄付をよろしくお願い致します!

やってみたいと思う方は
ボランティアルームまで
おこしてください。



●応援ボランティア

【開催日時】 ※6月以降の開催日時は、総会で決定します。

■第1・3・5週 14:00~15:30

■第2・4週 10:00~11:30

4月 5日(火)、 4月 19日(火)
5月 17日(火)、 5月 31日(火)

4月 12日(火)、 4月 26日(火)
5月 10日(火)、 5月 24日(火)

【作業内容】 本の書架整理、汚れ落とし、修理などを行います。

●古本朝市

【開催日時】 6月26日(日)、11月、2月26日(日)開催予定

【会場】 かほく市立中央図書館 2階



編集後記

今年1月、第154回芥川賞が発表され、本谷有希子さんが石川県出身者として初めて受賞されました。

本谷有希子さんを初めて知ったのは、10年ほど前に能都町で撮影された「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」という映画でした。濃く激しいキャラクターを持つ姉に、家族が振り回されるという物語でしたが、真夏の圧倒的な緑と能登特有のゆったりした雰囲気もあってか、家族みんなそれぞれに一生懸命なんだなあと、最後に不思議な印象を持ったことを覚えています。

この映画の原作をはじめ、受賞後のインタビューで「割と今まで激しい感情を持った人たちが出てくる小説を書き続けていた」と本谷さん自身お話されていましたが、受賞作である「異類婚姻譚(いるいこんいんたん)」は、まったく異なるとのこと。きっかけはお子さんの妊娠・出産だったそうです。生活の変化の中から、新しい小説を生み出されたことにたくましさを感じました。これから読むのが楽しみです。(M.I)

現在の会員数 121名

入会のお申し込みは、中央図書館サービスカウンターにて随時受け付けております。